

オキナワンハーブの極め 実も葉も使える八重山のピパーチ



個性豊か八重山のハーブ

石垣島の街はずれ、市内から車で約10分ほどのところに、「石垣島ハーブスクール」という看板がさとうきび畑の一角に見えてくる。キャッチコピーは「健康維持に、ビジネス拡大に」と、何やら面白そうである。特に、「ビジネス拡大に」というフレーズが妙に気になる。ハーブでビジネス拡大？ますます興味が湧いてくる。

その石垣島ハーブスクールを主宰しているのが、富西洋子さんだ。富西さんは平成19年にスクールを開業した。ナチュラルアート農業スクールのようなスクールをめざし、ハーブの農園から生産することから始まって、加工から販売、スクールの運営、エステ、アロマの技術習得、ポタニカルアートまで、全てをこなすまさにスーパーウーマンである。

6次産業化という言葉が最近一人歩きし始めているが、富西さんは一人で6次産業化を実践していると言っている。人々が、「こんな雑草だらけの畑で何してるの」とか言われても、自分の信念を貫き通す力が富西さんにはある。与那国島出身の富西さんは、離島苦の中で独学で植物のこと、ハーブのこと、料理のことを勉強してきたのである。

